

令和6年度 授業改善推進プラン（理科）

作成者 片平勇紀

令和5年度の授業改善推進プランの成果と課題

1年	2年	3年
<p>成果 思考ツールを用いて、問題発見の場面で、自分の考えをもてるようになった。</p> <p>課題 知識の概念的理解に課題がある。</p>	<p>成果 パフォーマンス課題の実施により、知識・技能の定着が見られた。</p> <p>課題 実験方法の立案について、複数の方法が出た際に、実現可能性や、妥当性の観点から検討できるようにしたい。</p>	<p>成果 パフォーマンス課題の実施により、探究活動全体を振り返ることができた。</p> <p>課題 1、2年時の学習を忘れていたが多かった。定期的に確認をしていきたい。</p>

学年毎の課題分析	学 年	生徒の実態	学力調査、授業アンケート等を受けての具体的な授業改善策	
			第1回	第2回
	1年	理科の事物・現象に対する関心は、高い。また、ICT機器を活用し、思考ツールを用いて話し合い活動や、思考を深めることができる。	・授業や教科に対して肯定的な内容だった。引き続き、単元を通したパフォーマンス課題を設定した授業デザインを行う。その際に、ICT機器を活用しながら、生徒が探究的な学びを行えるように問題発見の場面で特に支援する。	
	2年	理科の事物・現象に対して協働しながら探究活動を行うことができる。また、探究活動を通して新たな問いを見出そうとする姿が見られる	・授業や教科に対して肯定的な内容だった。引き続き、単元を通したパフォーマンス課題を設定した授業デザインを行う。その際に、生徒が探究的な学びを行えるように実験方法の立案の場でICT機器や思考ツールを活用して支援する。	
	3年	学習の定着に差があるものの、理科の事物・現象に対して、互いに協働しながら科学的に探究活動を進めることができる	・授業や教科に対して肯定的な内容だった。引き続き、単元を通したパフォーマンス課題を設定した授業デザインを行う。その際に、生徒が既習事項を生徒各自が確認できるように、アダプティブ教材の活用を推進する。	

令和6年度の授業改善推進プランの成果と課題

1年	2年	3年